

環境経営レポート

2022年度



(富士山世界文化遺産登録)

E A 2 1

対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日

発行日 2023年11月1日

力ナエ工業株式会社

静岡県富士宮市万野原新田3680-9

①. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者

事業者名 : カナエ工業株式会社
代表者 : 代表取締役 清 行雄

2. 所在地

本社 静岡県富士宮市万野原新田3680-9
御殿場事業所 静岡県御殿場市中畑1491

3. 事業の概要

輸送用機械器具製造業
自動変速機用部品、燃料給油用パイプ部品、エアバック用部品の生産等

4. 事業規模

	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	7,258.44	8,060.72	7,759.47
従業員数	人	248	230	212
床面積	m ²	17,025	17,025	18,819

※従業員数は各年度末…常勤役員、パート、技能実習生、派遣社員を含む

5. 環境経営に関する組織体制

環境管理最高責任者 : 代表取締役社長 清 行雄
環境管理責任者 : 取締役総務部長 木内友明
E A 2 1 事務局 : 総務課長 小林敦夫
環境活動推進者 : 全従業員

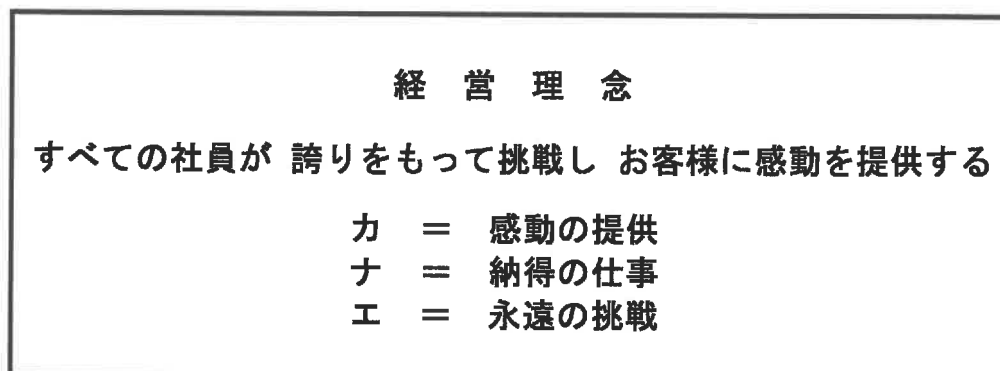
②. 対象範囲（認証・登録範囲）

本社工場・御殿場事業所の全活動が対象範囲

認証・登録日 2006年07月20日
更新・登録日 2022年07月20日
有効期限 2024年07月19日

③. 環境経営方針

カナエ工業株式会社は『経営理念』に基づき、事業活動を通じて全ての社員が自主的、積極的に環境負荷の継続的な削減に取り組んでいます。



環境経営方針

【環境経営理念】

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識に立ち、本業である自動車部品の生産を通じて、地球温暖化問題への取組や地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

【環境保全への行動指針】

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 化学物質については適正管理に努めます。
6. 環境に配慮した製品を効率よくタイムリーにお客様にお届けします。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

(年度初めの全員集会にて環境管理責任者より全従業員に周知)

制定日 2018年4月1日

カナエ工業株式会社

代表取締役社長

清 行雄

④. 環境経営目標

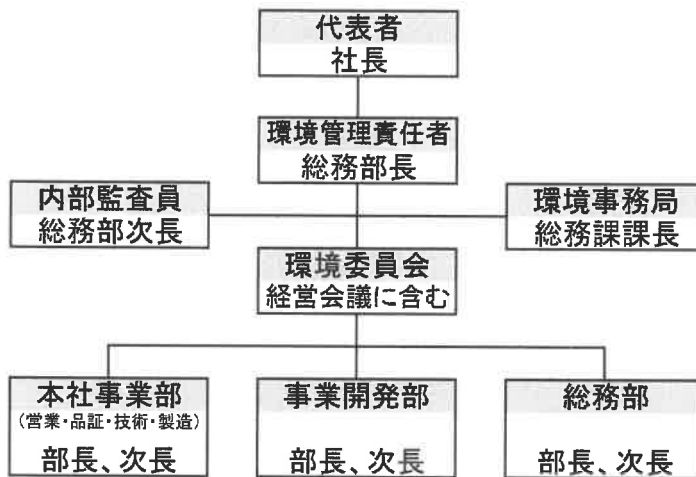
項 目	単 位	2019年度 基準実績	2022年度 目標値は 2019年度 基準実績の	2023年度 目標値 2019年度 基準実績の	2024年度 目標値 2019年度 基準実績の
		100%	97.0%	96.0%	95.0%
①二酸化炭素排出量削減	Kg-Co2	3,777,983.00	3,664,643.51	3,626,863.68	3,589,083.85
購入電力	KWh	6,153,731.00	5,969,119.07	5,907,581.76	5,846,044.45
灯油	ℓ	10,573.00	10,255.81	10,150.08	10,044.35
A重油	ℓ	46,770.00	45,366.90	44,899.20	44,431.50
プロパンガス	kg	212,977.00	206,587.69	204,457.92	202,328.15
フォークリフト 用LPG	kg	12,285.00	11,916.45	11,793.60	11,670.75
ガソリン	ℓ	9,916.00	9,618.52	9,519.36	9,420.20
軽油	ℓ	1,199.00	1,163.03	1,151.04	1,139.05
②化学物質の削減 メッキ工程で排出されるPRTTR対象物質（亜鉛の水溶性化合物、クロム及び3価クロム化合物、6価クロム化合物）については取引先の仕様により削減が困難な為、日常における「適正管理」を目標とし、排出量が多い（水酸化ナトリウム、硝酸、硫酸）について、以下の削減目標を掲げて取り込みを行う。					
水酸化ナトリウム	kg	10,800	10,476	10,368	10,260
硝酸	kg	800	776	768	760
硫酸	kg	9,225	8,948	8,856	8,764
③総排水量の削減	m ³	22,820	22,135	21,907	21,679
④産業廃棄物合計の削減					
廃プラ・木屑	t	26.95	26.14	25.87	25.60
スラッジ・汚泥	t	40.6	39.4	39.0	38.6
廃油	t	48.8	47.3	46.8	46.4
⑤自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善					
顧客要求の環境配慮 に資する製品対応	%	100.0	100.0	100.0	100.0

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.457kg-Co2/Kwh（東京電力令和元年度実排出係数）

2022年度 環境活動計画 (期間 2022/4～2023/3)		担当	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	①	②	③	評価	コメント
会議資料のプロジェクト活用	随時	各係長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各自にノートPCを持たせ、印刷物を持ち込んでの会議は減っているため○ 事務用品依頼から決裁書まで社内ネットワークで出来、印刷物はないため○
社内ネットワークの有効活用 (ペーパーレス)		各係長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
製品の環境性能の向上																
顧客要求の環境配慮に資する製品要求		製造部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	取引先から使用を強制される化学物質以外は、環境面や消防法を考慮し、危険度の低いものに変更をしているため○
環境への取組周知																
年度全員集会/経営会議にて環境への取組周知		環境事務局	○		○				○			○			○	定期的に係別のCO2排出量の報告を実施しているため○
その他活動																
防災訓練での安全防護対策		自衛消防 防護班 自衛消防 消火班 全従業員						○						○	△	実施はしたが、土のうや油吸収マット、メッキ液が漏れた際の対応が不明確なため、次年度に持ち越す
地域環境活動への参加		全従業員	随時												×	コロナ禍で植樹や清掃運動がなく、活動できなかった

⑥. 実施体制

➤ 環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境経営に関する統括責任 ➤ 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ➤ 環境経営方針の策定・見直し ➤ 環境経営目標・環境経営計画書を承認 ➤ 代表者による全体の評価と見直し、指示 ➤ 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境経営システムの構築、実施、管理 ➤ 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ➤ 環境経営目標・環境経営計画書を確認 ➤ 環境活動の取組結果を代表者へ報告 ➤ 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ➤ 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ➤ 環境活動の実績集計 ➤ 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ➤ 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ➤ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ➤ 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境経営計画の審議 ➤ 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ➤ 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ➤ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境に関する内部監査の計画 ➤ 環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ➤ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

⑦-1. 環境経営目標及び環境経営計画の実績

項目	単位	2019年度 基準実績	2022年度 目標値は 2019年度 基準実績の	2022年度 実績	2022年度 実績と 2019年度 基準実績 との比較 値	判定 基準※ 2	目標未達の 要因	原単位 売上比率 に変換 ※1
		100%	97.0%					94.1%
売上高	百万円	8,570		7,759	90.5%			
①二酸化炭素 排出量削減	kg-Co2	3,777,983	3,664,644	3,402,194	90.1%	○		90.8%
購入電力 ※3	KWh	6,153,731	5,969,119	5,548,888	90.2%	○		85.9%
灯油	ℓ	10,573	10,256	6,632	62.7%	○		66.7%
A重油	ℓ	46,770	45,367	51,760	110.7%	×	生産数量増加のため	117.7%
プロパン	kg	212,977	206,588	241,546	113.4%	×	生産数量増加のため	120.6%
フォークリフト 用LPG	kg	12,285	11,916	7,590	61.8%	○		65.7%
ガソリン	ℓ	9,916	9,619	5,333	53.8%	○		57.2%
軽油	ℓ	1,199	1,163	2,045	170.6%	×	軽油車が+1台と なったため	181.0%
②化学物質の削減	メッキ工程で排出されるPRTR対象物質は日常における「適正管理」を目標通り達成しました。							
水酸化 ナトリウム	kg	10,800	10,476	15,100	139.8%	×	生産数量増加のため	148.7%
硝酸	kg	800	776	940	117.5%	×	生産数量増加のため	124.9%
硫酸	kg	9,225	8,948	5,920	64.2%	○		68.2%
③総排水量の削減	m ³	22,820	22,135	23,011	100.8%	×		107.2%
④産業廃棄物 最終処分量削減								
廃プラ・木屑・ 混合物	t	26.95	26.14	22.8	84.7%	○		90.0%
スラッジ・汚泥	t	40.6	39.4	29.6	72.8%	○		77.4%
廃油	t	48.8	47.3	24.0	49.2%	○		52.3%
⑤自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善								
顧客要求の 環境配慮に資 する製品対応	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	○		

※1 原単位(売上比率)に変換とは「2019年度基準実績との比較値」× $\frac{2022年度売上高(7,759百万円)}{2019年度売上高(8,570百万円)}$

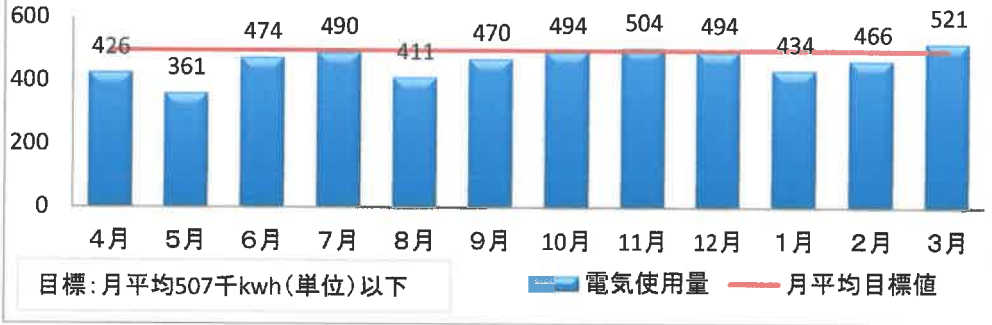

※2 判定基準 ○:目標達成(99%以下) △:目標未達(99%超過~100%以下) ×:目標未達(100%超過)

※3 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.447kg-Co2/Kwh(東京電力令和2年度実排出係数)

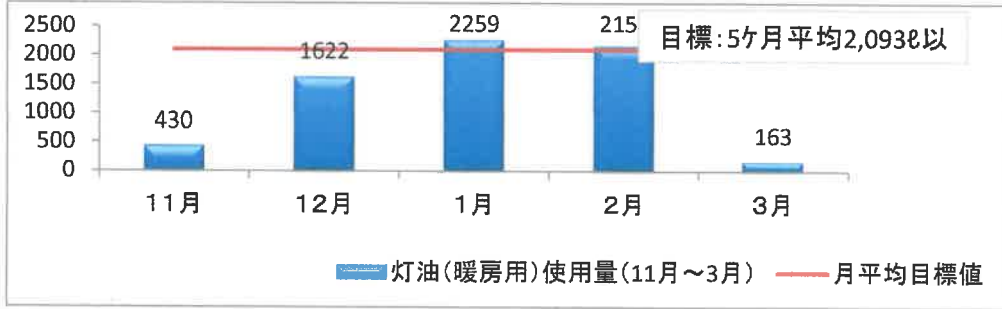

Table with columns for Item (品目), Unit (単位), and 12 months of data (1-12). Rows include categories like Purchased Electricity (購入電力), Heavy Oil (重油), Propane (プロパン), LPG, Gasoline (ガソリン・軽油), Kerosene (灯油), and Sewage (上水). Each row contains numerical values for each month and a total for the year.

⑦-4. 環境経営目標・計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標・計画

1. 電力使用量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>1. 冷暖房基準（冷房28℃、暖房20℃）を徹底。 2. 作業服のクールビズとしてマーク入りポロシャツ&Tシャツ促進。 3. 事業計画として業務の効率化（合理化）を推進し残業を減らした。 4. 圧縮空気のエア漏れ点検と必要に応じた対策に取り組んだ。</p>
<p>取組結果</p>	 <p>目標：月平均507千kwh(単位)以下</p> <p>■ 電気使用量 — 月平均目標値</p>
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績（6,153千kwh）の97%目標（5,969千kwh）に対し、2022年度実績（5,549千kwh）で90.1%と目標を達成した。</p> 
<p>次年度の取組内容(是正処置)</p>	<p>鉄工団地内で太陽光発電の話がきている。屋根に乗せることができるかわからないが、検討を行う。非化石エネルギーへの転換が求められているため、クリーン電力の購入を検討しなくてはならない。 社内使用分と御殿場使用分で区別し、判断できるようにしたい</p>

2. 燃料関係（灯油：暖房用）の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>業務の合理化による残業時間の削減に取り組み、結果として暖房用ストーブ（灯油）の使用時間削減に取り組んだ。 一部の工場では電気ストーブに変えたため、使用量が削減できた</p>
<p>取組結果</p>	 <p>目標：5ヶ月平均2,093ℓ以下</p> <p>■ 灯油(暖房用)使用量(11月～3月) — 月平均目標値</p>
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績（10,573ℓ）の97%目標（10,256ℓ）に対し、2022年度実績（6,632ℓ）の62.7%で目標を達成した。</p> 
<p>次年度の取組内容(是正処置)</p>	<p>火事を考え電気ストーブの購入を推進しているが、製造現場の根本的な寒さ対策は出来ていない。電気ストーブの方がCO2排出量も多いが、灯油使用による火事が怖いいため、引き続き、推進していく。</p>



3. 燃料関係（A重油）の削減

主な取組内容	ボイラーの日常点検	
取組結果	<p>目標：月平均3,858ℓ(単位)以下</p>	
評価	<p>2019年度基準実績（46,770ℓ）の97%目標（45,367ℓ）に対し、2022年度実績（51,760ℓ）の110.7%と目標を達成することが出来なかったこれは、製造工程の生産性を向上させた成果と言える。</p>	
次年度の取組内容	生産が終わる何分前にボイラーを消しても製品に影響が出ないのか、引き続き検討をする	



4. 燃料関係（プロパンガス）の削減

主な取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 製品と製品の間小物製品を敷き詰めることによる稼働時間削減 2基ある連続口付け炉を集約し、1基を週3日稼働停止させる 	
取組結果	<p>目標：月平均17,570kg(単位)以下</p>	
評価	<p>2019年度基準実績（212,977kg）の97%目標（206,588kg）に対し、2022年度実績（241,546kg）の113%と目標を達成することが出来なかった</p>	
次年度の取組内容(是正処置)	引き続き、連続3日停止が出来るように努める 社内使用分と御殿場使用分で区別し、判断できるようにしたい	


5. 燃料関係（フォークリフト用LPG）の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>物流の合理化活動に取り組みフォークリフト用LPG使用率の削減を追求した。</p>																										
	 <table border="1" data-bbox="411 376 1385 689"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>LPG購入量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>735</td></tr> <tr><td>5月</td><td>480</td></tr> <tr><td>6月</td><td>660</td></tr> <tr><td>7月</td><td>540</td></tr> <tr><td>8月</td><td>705</td></tr> <tr><td>9月</td><td>645</td></tr> <tr><td>10月</td><td>645</td></tr> <tr><td>11月</td><td>735</td></tr> <tr><td>12月</td><td>630</td></tr> <tr><td>1月</td><td>555</td></tr> <tr><td>2月</td><td>615</td></tr> <tr><td>3月</td><td>645</td></tr> </tbody> </table> <p>目標: 月平均1,013kg(単位)以下 ■ LPG購入量 — 月平均目標値</p>	月	LPG購入量 (kg)	4月	735	5月	480	6月	660	7月	540	8月	705	9月	645	10月	645	11月	735	12月	630	1月	555	2月	615	3月	645
月	LPG購入量 (kg)																										
4月	735																										
5月	480																										
6月	660																										
7月	540																										
8月	705																										
9月	645																										
10月	645																										
11月	735																										
12月	630																										
1月	555																										
2月	615																										
3月	645																										
<p>取組結果 & 評価</p>	<p>2019年度基準実績 (12,285kg) の97%目標 (11,916kg) に対し、2022年度実績 (7,590kg) で61.8%と目標を達成することが出来た</p> 																										
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>保有しているフォークリフト12台中11台が電気フォークとなっている。残り1台と他社保有のフォーク2台がLPGを利用しているが、ここが限界数字かと思われる</p>																										


6. 燃料関係（ガソリン）の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>1. 無駄な出張の削減 2. 全事務員へノートPCの提供</p>																										
<p>取組結果</p>	 <table border="1" data-bbox="406 1270 1380 1583"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>ガソリン購入量 (L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>418.39</td></tr> <tr><td>5月</td><td>571.43</td></tr> <tr><td>6月</td><td>394.9</td></tr> <tr><td>7月</td><td>419.98</td></tr> <tr><td>8月</td><td>573.17</td></tr> <tr><td>9月</td><td>309.94</td></tr> <tr><td>10月</td><td>361.16</td></tr> <tr><td>11月</td><td>583.31</td></tr> <tr><td>12月</td><td>239.4</td></tr> <tr><td>1月</td><td>554.82</td></tr> <tr><td>2月</td><td>411</td></tr> <tr><td>3月</td><td>495.67</td></tr> </tbody> </table> <p>目標: 月平均823ℓ(単位)以下 ■ ガソリン購入量 — 月平均目標値</p>	月	ガソリン購入量 (L)	4月	418.39	5月	571.43	6月	394.9	7月	419.98	8月	573.17	9月	309.94	10月	361.16	11月	583.31	12月	239.4	1月	554.82	2月	411	3月	495.67
月	ガソリン購入量 (L)																										
4月	418.39																										
5月	571.43																										
6月	394.9																										
7月	419.98																										
8月	573.17																										
9月	309.94																										
10月	361.16																										
11月	583.31																										
12月	239.4																										
1月	554.82																										
2月	411																										
3月	495.67																										
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績 (9,916ℓ) の97%目標 (9,619ℓ) に対し、2022年度実績 (5,333ℓ) で53.8%と目標を達成することが出来た</p> 																										
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>引き続き無駄な出張の削減と、WEB打合せを推奨していく</p>																										


7. 燃料関係（軽油）の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>削減アイテムなし</p>
<p>取組結果 & 評価</p>	<p>2019年度基準実績（1,199ℓ）の97%目標（1,163ℓ）に対し、2022年度実績（2,045ℓ）で171%と目標を達成することが出来なかった</p> 
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>軽油を使う車が1台増えてしまったため、目標値と乖離が進んだ。主として金型を運ぶ際にトラックが必要だが、TRYを何回も行うせいで金型を何往復もさせている実態がわかった。工機課の技術力が上がれば軽油が減るため、工機課には意識をしてもらうこととする。</p>


8. 上水使用量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>自動水栓による節水化</p>
<p>取組結果</p>	
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績（3,108.6m³）の97%目標（3,015.3m³）に対し、2022年度実績（3,333.1m³）の107%と目標を達成することが出来なかった</p> 
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>現在は水道代の請求時にならないと上水の異常がわからない仕組みとなっている。定期的にメーターを読み取るようにすること。</p>

9. 化学物質（水酸化ナトリウム：苛性ソーダ）使用量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>必要最低限の使用量に挑戦</p>																										
<p>取組結果</p>	<p>目標：月平均891kg(単位)以下</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)購入量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>1225</td></tr> <tr><td>5月</td><td>1000</td></tr> <tr><td>6月</td><td>1225</td></tr> <tr><td>7月</td><td>1325</td></tr> <tr><td>8月</td><td>1075</td></tr> <tr><td>9月</td><td>1625</td></tr> <tr><td>10月</td><td>1225</td></tr> <tr><td>11月</td><td>875</td></tr> <tr><td>12月</td><td>875</td></tr> <tr><td>1月</td><td>1100</td></tr> <tr><td>2月</td><td>1400</td></tr> <tr><td>3月</td><td>2150</td></tr> </tbody> </table> <p>— 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)購入量 — 月平均目標値</p>	月	水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)購入量 (kg)	4月	1225	5月	1000	6月	1225	7月	1325	8月	1075	9月	1625	10月	1225	11月	875	12月	875	1月	1100	2月	1400	3月	2150
月	水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)購入量 (kg)																										
4月	1225																										
5月	1000																										
6月	1225																										
7月	1325																										
8月	1075																										
9月	1625																										
10月	1225																										
11月	875																										
12月	875																										
1月	1100																										
2月	1400																										
3月	2150																										
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績（10,800kg）の97%目標（10,476kg）に対し、2022年度実績（15,100kg）の139.8%と目標を達成することが出来なかった</p> 																										
<p>次年度の取組内容（是正処置）</p>	<p>使用量をひとくくりにしてしたが、実際は①メッキ生産時、②メッキ排水処理時、③スラッジ排水処理時の3つに分かれる。基本的に②しか追及をしていなかったが、3つ全てに使用量が合っているが確認を行う。</p>																										

10. 産業廃棄物（廃プラ・木屑・混合物）排出量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>引き続き分別の強化</p>																										
<p>取組結果</p>	<p>目標：月平均2,223kg(単位)以下</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>産廃(廃プラ・木屑)排出量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>2390</td></tr> <tr><td>5月</td><td>2750</td></tr> <tr><td>6月</td><td>2440</td></tr> <tr><td>7月</td><td>2980</td></tr> <tr><td>8月</td><td>1450</td></tr> <tr><td>9月</td><td>280</td></tr> <tr><td>10月</td><td>3480</td></tr> <tr><td>11月</td><td>840</td></tr> <tr><td>12月</td><td>1230</td></tr> <tr><td>1月</td><td>270</td></tr> <tr><td>2月</td><td>1980</td></tr> <tr><td>3月</td><td>2730</td></tr> </tbody> </table> <p>— 産廃(廃プラ・木屑)排出量 — 月平均目標値</p>	月	産廃(廃プラ・木屑)排出量 (kg)	4月	2390	5月	2750	6月	2440	7月	2980	8月	1450	9月	280	10月	3480	11月	840	12月	1230	1月	270	2月	1980	3月	2730
月	産廃(廃プラ・木屑)排出量 (kg)																										
4月	2390																										
5月	2750																										
6月	2440																										
7月	2980																										
8月	1450																										
9月	280																										
10月	3480																										
11月	840																										
12月	1230																										
1月	270																										
2月	1980																										
3月	2730																										
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績（26.95 t）の97%目標（26.14t）に対し、2022年度実績（22.8t）の84.7%と目標を達成することが出来た</p> 																										
<p>次年度の取組内容（是正処置）</p>	<p>どこに捨てて良いか悩んだ場合、製造の課長を窓口として相談所を設けた。その効果が出ていると思われる。引き続き分別の強化を行っていく。</p>																										

1.1. 産業廃棄物（スラッジ・汚泥）排出量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>削減アイテムなし</p>																											
<p>取組結果</p>	<table border="1"> <caption>産業廃棄物（スラッジ・汚泥）排出量</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>排出量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>0</td></tr> <tr><td>5月</td><td>5380</td></tr> <tr><td>6月</td><td>0</td></tr> <tr><td>7月</td><td>4440</td></tr> <tr><td>8月</td><td>0</td></tr> <tr><td>9月</td><td>4380</td></tr> <tr><td>10月</td><td>0</td></tr> <tr><td>11月</td><td>4810</td></tr> <tr><td>12月</td><td>0</td></tr> <tr><td>1月</td><td>5410</td></tr> <tr><td>2月</td><td>5140</td></tr> <tr><td>3月</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>目標: 月平均3,351kg(単位)以下</p>		月	排出量 (kg)	4月	0	5月	5380	6月	0	7月	4440	8月	0	9月	4380	10月	0	11月	4810	12月	0	1月	5410	2月	5140	3月	0
月	排出量 (kg)																											
4月	0																											
5月	5380																											
6月	0																											
7月	4440																											
8月	0																											
9月	4380																											
10月	0																											
11月	4810																											
12月	0																											
1月	5410																											
2月	5140																											
3月	0																											
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績 (40.6 t) の97%目標 (39.4t) に対し、 2022年度実績 (29.6t) の84.7%と目標を達成することが出来た</p>																											
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>生産数量で増減はどうにでもなってしまう 量で判断も良いが、生産数量に応じた判断ができるような仕組みにしたい</p>																											

1.2. 産業廃棄物（廃油）排出量の削減

<p>主な取組内容</p>	<p>1. 機械油等、年次交換だったものを生産量に応じて2年に1回など交換時期の見直しを行う 2. 引き続き再利用・廃油の有価物としての売却を進める</p>																											
<p>取組結果</p>	<table border="1"> <caption>産業廃棄物（廃油）排出量</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>排出量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>0</td></tr> <tr><td>5月</td><td>5700</td></tr> <tr><td>6月</td><td>0</td></tr> <tr><td>7月</td><td>3000</td></tr> <tr><td>8月</td><td>7200</td></tr> <tr><td>9月</td><td>0</td></tr> <tr><td>10月</td><td>0</td></tr> <tr><td>11月</td><td>0</td></tr> <tr><td>12月</td><td>0</td></tr> <tr><td>1月</td><td>3700</td></tr> <tr><td>2月</td><td>0</td></tr> <tr><td>3月</td><td>4400</td></tr> </tbody> </table> <p>目標: 月平均4,030kg(単位)以下</p>		月	排出量 (kg)	4月	0	5月	5700	6月	0	7月	3000	8月	7200	9月	0	10月	0	11月	0	12月	0	1月	3700	2月	0	3月	4400
月	排出量 (kg)																											
4月	0																											
5月	5700																											
6月	0																											
7月	3000																											
8月	7200																											
9月	0																											
10月	0																											
11月	0																											
12月	0																											
1月	3700																											
2月	0																											
3月	4400																											
<p>評価</p>	<p>2019年度基準実績 (48.8 t) の97%目標 (47.3t) に対し、 2022年度実績 (24.0t) の49.2%と目標を達成することが出来た</p>																											
<p>次年度の取組内容 (是正処置)</p>	<p>機械油等を生産量に応じた交換を進めているが、問題が起きないか引き続き注視していく</p>																											

1.3. 環境に配慮した製品を生産及びサービスを推進する

<p>主な取組内容</p>	<p>中部産業連盟のコンサルティング指導による”VM本賞”（5S・VM）を受賞し、環境の整備を含めた5S・VM（見える化）を継続展開一部として</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢品質改善により工程内不良・流出不良等が減り結果、環境への負荷量削減となった。 （工程内廃却金額は2019年対比で50.6%、不良件数は30%となっている） ➢リードタイム短縮改善や、自動化設備の開発・導入等により、残業時間の削減となり結果、環境への負荷量削減となった。
<p>評価</p>	<p>前年度に引き続き、5S・VM等の全社活動の結果、廃棄物の分別、フォークリフト運搬範囲減少、燃料・電気・水等資源の節約など環境への配慮が向上した。また、見える化により諸々の数値が見える様になり合理化展開が進み残業時間が削減され省エネとなった。</p>
<p>次年度の取組内容 （是正処置）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢PRTR法が変わり、化学物質の種類が増える。油業者が複数あるので、変更後にPRTRに該当する油であるならば変更ができるか余裕を持って検討をする。

環境関連法規制等の取りまとめ表（遵守評価記録 評価者：総務課長

判定：○（適合） △（一部適合） ×（不適合） -（非該当）

No.	法規制等の名称 該当する要求事項（対応すべき事項） <条項>	該当する設備・項目 実施時期	判定根拠	判定
廃棄物処理法・・・廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
1	一般廃棄物の収集業者への委託、許可の確認 <法6条の2 6項>	一般廃棄物（可燃物等）	『産廃（許可証・契約書）管理表』確認	○
	産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約1回/年 <法12条 5項>	産業廃棄物	『産廃（許可証・契約書）管理表』確認	○
	産廃物の適正保管：掲示板表示 <法12条 2項> 飛散・浸透防止、衛生管理	産廃置場（廃プラ、木屑、汚泥、廃油、金属くず等）	現地確認	○
	マニフェストの交付・保管 <法12条の3> <法12条の3 2項> 保管(5年)	産業廃棄物（廃プラ、木屑、汚泥、廃油、金属くず等）	『産業廃棄物管理票』確認 毎月	○
	産業廃棄物（マニフェスト）の交付状況の報告 <法12条の3 7項> 各事業場ごと） 6/30	本社・御殿場事業所	『産廃管理票交付等状況報告書』の記録 R2/4	○
	特別管理産廃管理責任者の選任義務試験	対象外 汚泥（メッキスラッジ）	確認 『試験成績書（汚泥）』確認	○
	委託先業者の現地確認（優良業者は除外しても可） <県条例10条> 多量排出事業者（前年度産廃発生量が1000ト/年以上または特管産廃50ト/年以上）は減量計画を策定し報告		一部の業者しか実施できなかったため 特管産廃0トにて対象外	△ -
フロン排出抑制法・・・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律				
2	7.5kw以上50kw未満のIPJは3年に1回以上の定期点検	7.5-（7.5kw以上 御殿場）	『環境などに関する法律・条例一覧表及び届出認可確認チェックシート』（ワイズより継承）	○
	第一種特定製品は3ヶ月に1回以上の簡易点検（異音、外観損傷等）	IPJ 7.5kw未満	『空調機 簡易点検表』にて実施	○
	フロン類回収依頼時の委託確認書交付と引取証明書の保存3年 <法41条～45条>		該当なし	-
	フロン類算定漏えい量等の報告義務 <法19条>		対象器具の故障がないため漏洩はないと判断し、該当なし	-
省エネ法・・・エネルギーの使用の合理化等に関する法律				
3	第2種エネルギー管理指定工場 <法13条 令6条>	本社：年度の原油換算I初等使用量の数値で1,500kℓ以上	第二種エネルギー管理指定工場	○
	エネルギー管理員の選任義務 <法14条>	特定事業者	H21/12より選任者の変更なし	○
	中長期計画書の提出 <法15条 1項>		提出済み	○
	特定事業者のエネルギー使用状況の定期報告 <法16条 1項>	特定事業者	提出済み	○
P R T R 法・・・化学物質排出把握管理促進法				
4	第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出 <法5条 2項>	亜鉛の水溶性化合物、ナチルナフタレン	静岡県生活環境課へ届出	○
	性状・取扱いに関する情報（SDS）の受取…当社発行なし		SDSファイル	○
大気汚染防止法				
5	排出基準の遵守（排出濃度の測定・記	ボイラーばい煙量等測定	ばい煙量等測定結果確認	○
	特定施設の届出 <法3条 2項>	乾燥炉		○
水質汚濁防止法				

環境関連法規制等の取りまとめ表（遵守評価記録 評価者：総務課長

判定：○（適合） △（一部適合） ×（不適合） -（非該当）

No.	法規制等の名称 該当する要求事項（対応すべき事項） <条項>	該当する設備・項目 実施時期	判定根拠	判定
6	特定施設の届出：酸又はアルカリによる表面処理施設（特定施設）	アルカリ洗浄機（御殿場）	放流水水質管理表 放流水水質計量4回/年	○
	点検	バレル研磨廃水処理施設：	廃水処理施設点検結果報告書基準値以内	○
	事故時の処置 ^ 油脂類・有害化学物質の流出 <法14条の2>		事故の発生なし	○
	氏名等変更届 <法10条>		富士宮市へ届出変更なし	○
	排水濃度の測定・記録3年、監視		計量証明書基準値以内	○
騒音規制法				
7	規制基準値の遵守：騒音測定 <法5条>	機械プレス	測定：	○
	特定施設の届出 <法6条>	コンプレッサー	変更なし	○
	氏名等変更の届出 <法10条>	富士宮市へ届出H9/3	変更なし	○
公害防止組織法・・・特定工場における公害防止組織の整備に関する法律				
8	公害防止統括者の選任 <法3条 3項>	特定工場 富士宮市へ届出 H18/6	変更なし	○
	公害防止統括者の代理者選任	特定工場 富士宮市へ届出 H18/6	変更なし	○
消防法				
9	消防用設備等の点検・報告 <法17条の設置届	消火設備の定期点検	深沢消防産業(株)が実施	○
	事故時の処置 <法16条の3> 危険物の流出その他の事故…	乾燥設備：粉体塗装焼付炉 170℃	消防組合へ届出H9/9	○
	防火管理者の選任 <法8条>	危険物の流出	なし	○
		消防組合へ防火管理者選任届	防火管理者（甲種）本社変更届 R1/10変	○
工業用水法				
	地下水採取量等報告義務 <県条例14条4項>	揚水設備設置者 報告H31/1	地下水採取量等報告書届出	○
毒物及び劇物取締法				
	危険物質の適正な保管基準	硫酸・塩酸		○
土壌汚染対策法				
	特定施設廃止時は土壌汚染調査・報告		該当なし	○
家電リサイクル法・・・特定家庭用機器再商品化法				
	特定家庭用機器廃棄物の適正な処理 <法6条>		確認：指定家電廃棄時のリサイクル料金の支払い	○

環境関連法規への違反、訴訟は有りません！

⑨. 代表者による全体の評価と見直し・指示

評価及び見直しに必要な情報

1. 環境経営目標の達成状況

2022年度目標値は2019年度基準実績の97%としたことで、15項目中9項目の目標を達成したが、6項目は未達である。特にA重油とプロパンの使用量が過剰であった。単純に使用量の比較や売上原単位の比較ではなく、A重油を使用した生産数による比較を行わなくては適正な使用となっているのか評価ができない。今後は目標年度の実際に生産した数と使用量を用いて比較できるように体制作りをする。

2. 環境経営計画の実施および運用結果

昨年度は6項目しか達成できなかったため、それと比べれば良い結果が得られた。だが、2013年度対比でCO2排出量を46%削減し、2050年度にはカーボンニュートラルを達成するには数字目標が弱すぎる、かつ、このままいったら達成はできない。非化石エネルギーに頼った電力を使用することも検討に入れる。

3. 環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等を常に最新版に更新できるだけの社内環境が整っていない。十分なのか不十分なのかも把握できていないため、社内環境を早急に整えることが課題。

4. 外部からの環境に関する苦情や要望等

近年は外部からの苦情はない

【全体評価】

現場から「全体の大きな数字を言われてもピンとこない」という意見があり、今期から係別のCO2排出量を毎月提示しているが、始めたばかりで課長以上でも、国が目指す目標値が高く何をしてもよいかわからない状況である。生産性が上がる改善は行ってきたが、生産性かつCO2排出量が減る改善を前面に出して行ってきてはいないため、各人とも知識不足であることは否めない。商社経由や展示会等で知識を深め、生産性と環境面が向上する改善に力を入れていくことが、直近の課題となる

代表者による見直し

2022年度の結果を振り返って、次年度の取組を継続的に改善する為には・・・

項目	変更なし	変更あり	変更指示
環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
環境経営目標	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2013年対比で2030年までにCO2排出量が46%削減となる目標を設定することを検討する。このまま1%削減では国の指針に反する。
環境経営計画	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
環境関連法規等遵守状況	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	環境関連法規を随時追えるような仕組みづくりをすること
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

カナエ工業株式会社

代表取締役社長 清 行雄